



瑞應世世大慈通元大和尚 秉炬佛事 不老閣貌下

銀杏

発行所
〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上 徳 存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127
毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

御法語

参師問法道根堅く
密密たる行修は古賢を慕う
九十七春一實の如く
性海を慈航して帰船に掉さしたまう

恭惟新般涅槃萬藏十一世溪壽廿七世聖護四世
贈永平西堂当山三十世重中興大慈通元大和尚真位
祖山の顧問 仏海大仙
生を瀬戸内の宝台に受け 朝夕波濤を詠詠と聴き
髪を孝如老翁の許に断じて 夙に佛種般若の縁を結ぶ
澆艸参玄 東都駒大の佛教学科を卒業し
明心悟道 永平僧堂に掛搭して直指の禪を証す
長福隆道老漢の室に入つて嗣法し 佛祖の正嫡と為り
本山永平諸嶽に瑞世拝登して 宗侶の首尾を全うす
仍而
廣島萬藏の梵城に住持し 高く法幢を掲げて檀越を接化し
錫を大洲溪壽の名刹に転じては 坐臥経行閑日月を旋らす
加之
布教師養成所の研修を了して
更に祖山の永平講師布教師長の要務を荷担し
説法度生の本領を發揮する
即ち知る
道韻山の如く 詞鋒凛凛として
四海を平吞する 明快なる言詮
然而
各地の布教要請に呼應し 東奔西走法筵を魅了する
錫を瑞應佛国僧堂に留めては 若輩の雲衲衆を薫育し
心を師家長の要務に注いで 祖父兄弟の法縁を深くしたまう
或いは又
瑞應寺光幼稚園を統理し 童心に帰つて園児佛子を慈憐す
寔に是れ
心境如如として 身は白雲と与に祖岳の頂に坐し
家風穆穆として 心は日月に似て普く人天を照らす
同祖山安居 忝多歳道愛
特道旧宣疏 芳情面目全
感謝盡くし難し
上來は大慈通元老和尚在世九十七年 自受用
他受用の活三昧也
即今 生死を透閑して 一路涅槃の城に遊戯し
大人の相を現す底の端的 如何が言詮に涉らん
嘆
松風江月秋清淨
古岸航帰一帯烟

山僧 曾

参師問法道根堅く
密密たる行修は古賢を慕う
九十七春一實の如く
性海を慈航して帰船に掉さしたまう

恭惟新般涅槃萬藏十一世溪壽廿七世聖護四世
贈永平西堂当山三十世重中興大慈通元大和尚真位
祖山の顧問 仏海大仙
生を瀬戸内の宝台に受け 朝夕波濤を詠詠と聴き
髪を孝如老翁の許に断じて 夙に佛種般若の縁を結ぶ
澆艸参玄 東都駒大の佛教学科を卒業し
明心悟道 永平僧堂に掛搭して直指の禪を証す
長福隆道老漢の室に入つて嗣法し 佛祖の正嫡と為り
本山永平諸嶽に瑞世拝登して 宗侶の首尾を全うす
仍而
廣島萬藏の梵城に住持し 高く法幢を掲げて檀越を接化し
錫を大洲溪壽の名刹に転じては 坐臥経行閑日月を旋らす
加之
布教師養成所の研修を了して
更に祖山の永平講師布教師長の要務を荷担し
説法度生の本領を發揮する
即ち知る
道韻山の如く 詞鋒凛凛として
四海を平吞する 明快なる言詮
然而
各地の布教要請に呼應し 東奔西走法筵を魅了する
錫を瑞應佛国僧堂に留めては 若輩の雲衲衆を薫育し
心を師家長の要務に注いで 祖父兄弟の法縁を深くしたまう
或いは又
瑞應寺光幼稚園を統理し 童心に帰つて園児佛子を慈憐す
寔に是れ
心境如如として 身は白雲と与に祖岳の頂に坐し
家風穆穆として 心は日月に似て普く人天を照らす
同祖山安居 忝多歳道愛
特道旧宣疏 芳情面目全
感謝盡くし難し
上來は大慈通元老和尚在世九十七年 自受用
他受用の活三昧也
即今 生死を透閑して 一路涅槃の城に遊戯し
大人の相を現す底の端的 如何が言詮に涉らん
嘆
松風江月秋清淨
古岸航帰一帯烟

山僧 曾

冀 尚亨

冀 尚亨

テレホン法話 (〇八九七四一〇〇三三) 禅のたより



縦ひ曲木と雖も

暦の上では霜月と言つても
まだまだ暑い日が続いていま
す。朝晩は涼しくなりましたが
紅葉もまだのようです。瑞應
寺の大銀杏が黄色く染まるの
は、今月末からでしょうか？
平成十三年に瑞應寺に上山
させて頂いて、二十年を過ぎ
人生の半分を僧堂に聞かせ
て頂きました。
瑞應寺では朝参(朝の挨拶)
の時に抹茶を頂いて、學道用
心集を拝読します。毎日繰り
返し拝読していると、上山当
初はただ読むだけであつても、
も、その時その時に合わせて
正に學道に寄り添つて教えて
下さいます。
學道用心集 第五 參禪學
道は正師を求むべき事に
「石、古人云く、發心正しから
ざれば万行空しく施すと。誠
なる哉この言。道を行ふこと
は導師の正と邪とに依るべし。
機は良材の如く、師は工匠に
似たり。」
縦いこれ良材と雖も、良工を
得ざれば奇麗未だ彰れず。
縦ひ曲木と雖も、若し好手に
遇わば妙功忽ち現れん。
師の正邪に随つて、悟の真偽あ
ること、之を以て曉るべし。」
とあります。
自信を持って自分が良材と
いえる人はそう居ません。も
しそうであつたとしても、良
工に出会えなければ、私は磨
かれません。そして自分を曲
木と考える人も居るでしょう。
例え曲木だとしても良工に出
会えれば、その修行はより良
いものになります。學道用心
集第五はこう結ばれます。
「文字を先とせず、解会を先
とせず、格外の力量あり、過
節の志気あつて、我見に拘わ
らず、情識に滞らず、行解相応
する、是れ乃ち正師なり。」
人生においてそのような正
師を得たならばすべからず精
進したいものです。
瑞應寺専門僧堂副典 足立光顯
令和四年十一月二十日

金毘羅秋大祭

十一月三日(木)旧十月十日
は毎年恒例、当山鎮守金毘羅大
権現様の秋の大祭日。新型コロナ
ナウイルス感染拡大防止の為、
邦楽奉納、パサー等は中止。感
染対策を講じ福引、福餅進呈の
み行つた。村上山主導師のもと
社殿にて、転読大殿若祈禱を厳
修。また、当山梅花講員の詠讀
歌奉詠が行われた。
不安が募る毎日であるが、山
内一同、当山檀信徒他、苦難に
立ち向かわれてはいるすべての
方々の御心が少しでも和らぐこ
とを祈つた。

冬安居入制

十一月十四日(月)より、配役
行茶、入寺式、土地堂念誦等、
入制行持が行われ、三ヶ月の冬
制中に入った。今冬首座大管康
檢(愛媛県観音寺久我明俊老師
徒弟以下大衆皆共に弃道安穩、
和合精進を念す。

十一月の日程

- 一日 祝禱
当山三十世本葬之儀
- 三日 金毘羅秋大祭
- 四日 達磨忌連夜諷經
- 五日 達磨忌正當諷經
- 六日 日曜参禅会
- 八日 参玄会(十日迄)
- 七日 住友供養
- 十四日 配役行茶・入寺式
- 十五日 土地堂念誦・庫司点湯
- 祝禱・小参・人事行札
略布薩
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿一日 太祖降誕会
- 廿日 略布薩

十二月の予定

- 一日 祝禱
- 臘八摂心(八日迄)
- 三日 日曜参禅会
- 八日 成道会
- 九日 断臂摂心(十日迄)
- 十日 震旦二祖忌
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十八日 観音講・勉強会
- ヘルモニ一同慰霊祭
- 廿九日 餅つき
- 卅一日 略布薩・除夜

銀杏感謝録

- 広島県 文裁寺 殿
 - 京都府 換骨堂 殿
 - 島根県 浄心寺 殿
 - 秋田県 陽澤院 殿
 - 鳥取県 瑞應寺 殿
 - 北海道 長福寺 殿
 - 長崎県 鐘ヶ江管一 殿
 - 島根県 神光寺 殿
 - 大阪府 船越久人 殿
 - 岐阜県 大幢寺 殿
 - 鳥取県 自照寺 殿
- (令和四年九月二十九日受付迄)



鐘声

先輩安居者からお聞きした事が
あります。
ある日、参道を掃除されている
方がおられました。
「いつも、きれいにして頂き、有
り難うございます。」
するとその方がおっしゃりました。
「いえいえ、こちらこそ掃除させ
て頂き有り難うございます。」
このお話をうかがって思わず目が
覚めた気がします。
首座の大任が果たせるか不安が
いっぱいですが、何事にも感謝の気
持ちは忘れず望みたいと思います。
今冬首座 康稔

冀 尚亨



大本山永平寺御専使 福村俊弘老師



大本山總持寺御専使 生田公文老師



愛媛県宗務所長 能仁光雄老師



奠茶師 矢野通玄老師



奠湯師 野田大燈老師



ひかり幼稚園児



出 喪

大本山永平寺贈西堂
当山三十世重中興

大慈通元大和尚本葬之儀

乘炬師 大本山永平寺貫首 南澤道人不老閣下

奠茶師 徳島県黒松寺 矢野通玄老師

奠湯師 香川県円通寺 野田大燈老師

鎖龕師 広島県宗光寺 垣井龍頭老師

起龕師 愛媛県善福寺 山本秀則老師

通夜説教 栃木県明林寺 西田正法老師

弔 辞

大本山永平寺御専使 福村俊弘老師

大本山總持寺御専使 愛媛県金剛寺 生田公文老師

愛媛県宗務所長 愛媛県金剛寺 能仁光雄老師



頂 相



起龕師 山本秀則老師



鎖龕師 垣井龍頭老師



通夜説教



通 夜